

木造狐像 1対



指定区分	県指定重要文化財(彫刻)
読みかた	もくぞうこぞう
所在地	岡山市北区丸の内 (岡山県立博物館)
指定年月日	令和6年3月15日
解説	木山山頂に位置し、弘仁7(816)年創建と伝えられる木山神社は、現在は山裾に里宮を造成して移転し、山頂には本殿等を残して奥宮とする。 本像は奥宮に安置されていた狐像である。 本像は、向かって右側に珠を銜(くわ)える珠取像(たまとりぞう)と、左側に鍵を銜える鍵取像(かぎとりぞう)を配する。 鍵取像内部の墨書から、安政4(1857)年に現在の津山市福渡町に住む甚兵衛が修理をしたと分かる。 同種の作例が乏しく造像年代は速断できないが、その像容から、中世後期以降の新しい信仰の中で造立された狐像と推察され、製作年代は室町時代とすることが現時点では妥当と評価される。 現存例として稀少であり、本県の神道美術史の見地からも、全国的な稻荷信仰史の観点からも重要な彫像である。
アクセス方法	
公開状況	非公開(県立博物館保管)
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(彫刻)
ぶんかざいめい (文化財名)	木造狐像 1対
よみかた	もくぞうこぞう
しょざいち (所在地)	岡山市北区丸の内 (岡山県立博物館)
していつひ (指定した日)	令和6年3月15日
せつめい	木山山頂に位置する木山神社の奥宮(おくみや)に安置されていた狐像です。 向かって右側に珠(たま)をくわえる珠取像(たまとりぞう)と、左側に鍵をくわえる鍵取像(かぎとりぞう)を置きます。 安政4(1857)年に現在の津山市福渡町に住む甚兵衛が修理をしたと分かります。 製作年代は室町時代と推測されています。 現存例として珍しく、岡山県の神道美術史や全国的な稲荷(いなり)信仰史においても重要です。